



ひとばん おお き 一晩で、大きくなる木はあるの

1日に120センチメートルのびたタケがある

「ジャックとマメの木」の話に出てくるような、ひとばん おお き 一晩で大きくなる木は、あるのでしょうか。探してみましたが、ざんねん 残念ながら、ないようです。

あちこちにたけ やぶがあつた日本では、むかし は、ゆかをつき破つてタケノコが顔を出したということが、よくあつたそうです。タケは、ふし ふし あいだ がそれぞれのび、め さき 芽の先のほうほど、よくのびます。そのため、き おん たか 気温が高く、し っ け 湿気もあり、のびざかりの時期には、1日に120センチメートルものびる、タケがあるのです。モウソウチクというタケは、1～2か月で、20メートルをこえるほどにのびます。

つる しょくぶつ も、のびるのがはやい

ヘチマやアサガオのつるも、き おん たか 気温が高く、みずけ 水気がたっぷりあるときは、よくのびます。また、よる より ひるま 夜より、昼間のほうがよくのびます。ヘチマは、よくのびる時期には、1日でおよそ17～20センチメートルものびます。しかし、がつ なか 5月の半ばにふた葉を出したヘチマをかんさつ 観察してみると、げつ ご 3か月後の8月末で、おおよそ10メートルぐらいまでのび、がつ 9月になると、もう、ほとんどせいちょう 成長しなくなります。

いま、いちばん せいちょう はや 成長が速い植物としてギネスブックにきろく 記録されているものは、1978年にちか ちか 近くにありしりーとう 島からほうこく 報告された、14日間で、3.65メートルのたか さま でせいちょう 成長した植物があつたという例です。その植物は、なかま ユリの仲間、スペロユッカ・ウイペレイというものです。日本のタケのほうが、はやい 速いようですね。（監修・矢野 亮）

